

# 頸城2軸客車(八5,6)組み立て説明



八5



八6

# ハ5と6の違いについて

- ハ5は旧魚沼鉄道ハ2,ハ6は旧魚沼鉄道口ハ1で両者は窓配置が異なっておりますが、そのほかにも若干の違いがあるようです。このキットでは両者の作り分けが出来るようになっております。

	ハ5	ハ6
側面窓	すべて等間隔(側板1A使用)	中央の窓柱が太い(側板1B使用)
ブレーキ支え	手ブレーキ側に偏っていて手ブレーキ用のでこが内側にある <a href="#">こちら</a> をご覧ください。	中央にあるが幅が狭く手ブレーキ用のでこは外側にある (軽便追想P.254をご覧ください)
手ブレーキ	T字型(実物写真は <a href="#">こちら</a> ,模型の作例は <a href="#">こちら</a> です)	1本の鉄棒をクランク状におり曲げてある( <a href="#">こちら</a> )
車輪	スポーク車輪	丸穴の開いたプレート車輪
検査表記	車体に直接書き込み	検査表記用の札に書き込み

- このほか昭和33年頃の写真を見るとハ6には車端部の標識灯かけがついていなかったり(後年設置したようです)他にも違いがあるようです。また、側面窓以外の上記の差についても後年の改造の結果と思いますが、いつ頃発生したものかはよくわかりません。

# 部品表と別購入部品

## 別購入部品

部品表

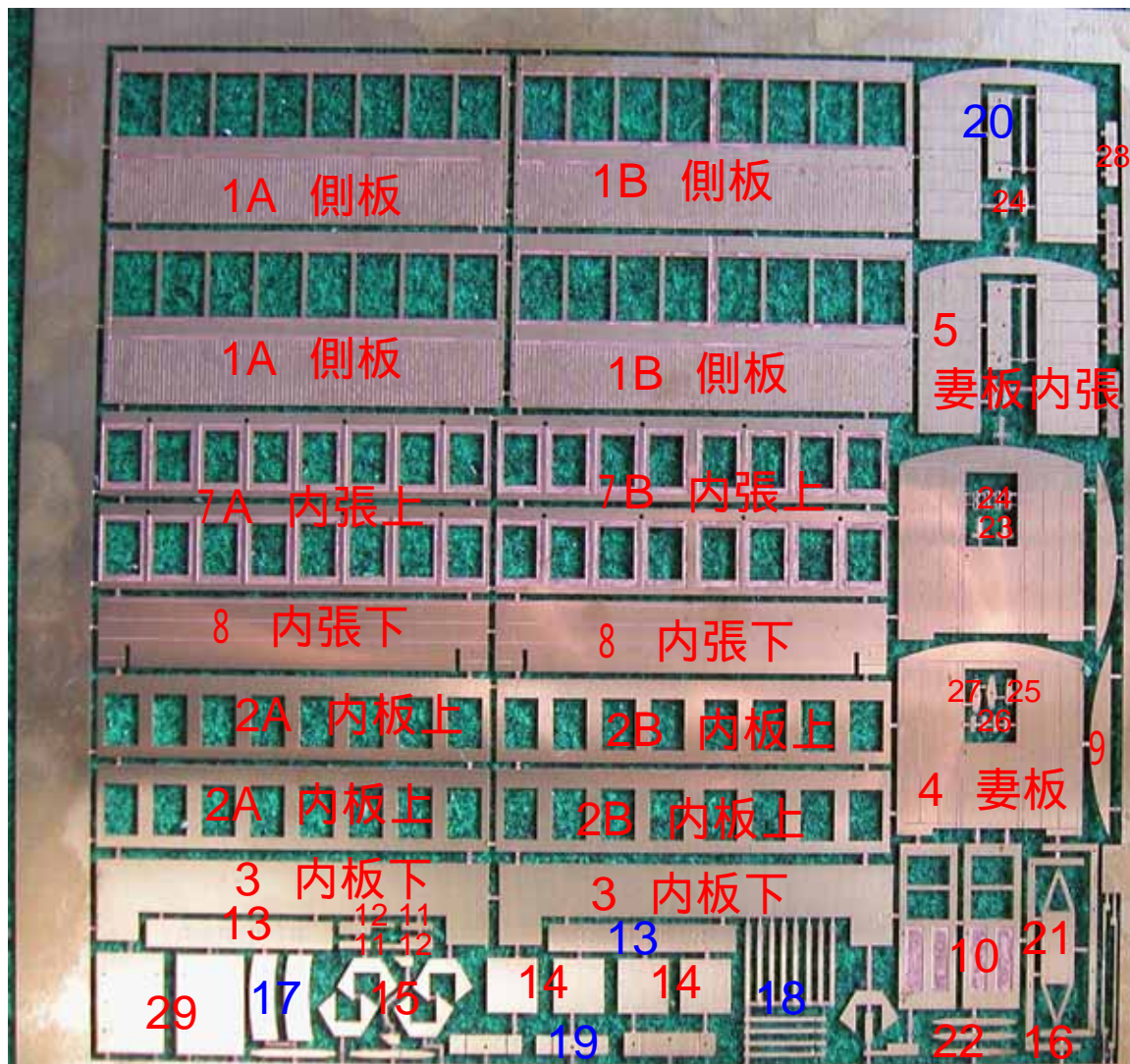
エッチング板0.4mm(大)		1
エッチング板0.4mm(小)		1
手ブレーキてこ		1
網棚支え		8
屋根(上)		1
屋根(下)		1
真鍮帯板	3.0×1.0mm	1

説明書の写真だけではわかりにくいかと思います。  
制作途中に撮った他の写真を別フォルダーに入れておきました。未整理で見にくいかと思いますが、ご参考ください。

[こちら](#)

品名	規格	メーカー	備考
朝顔型カブラー(E)		珊瑚	
電気用手すり座		珊瑚	
割ピン	0.5mm	FUKUHARA	
古典客車用軸受け(分割、ロスト)		珊瑚	
スポーク車輪	10.5	珊瑚	ハ5のみ
プレート車輪	10.5	珊瑚	ハ6のみ
以下素材(メーカーは特に問いません)			
真鍮アングル	5×4mm	エコーまたはKS	
真鍮角線	2.0×2.0mm	1.5×1.5mmでも可	
真鍮線	0.5mm		
真鍮線	0.7mm		
真鍮帯板	0.7×0.3		
真鍮帯板	0.8×0.4		
真鍮帯板	1.4×0.4		ハ6のみ
真鍮帯板	1.2×0.3		
真鍮帯板	1.0×0.3		
真鍮帯板	1.5×0.4		
真鍮帯板	1.2×0.3		
真鍮帯板	1.5×0.4		
真鍮帯板	5.0×0.4mm		
真鍮板	1.0mm		

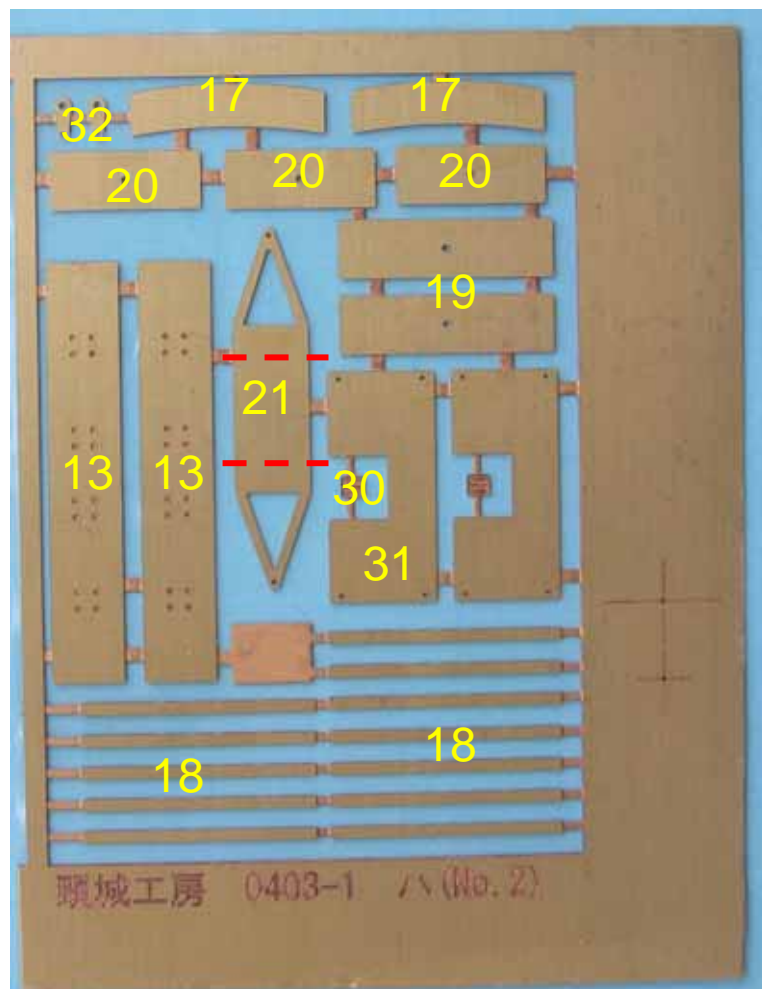
# 1-1. 部品の説明(0.4mm厚真鍮板)



- 9. 妻板上
- 10. ドア
- 11. 妻板下(右)
- 12. 妻板下(左)
- 13. 端梁
- 14. ステップ
- 15. ステップ下
- 16. デッキ上
- 17. モニター妻
- 18. 側梁補強
- 19. 連結器受け(下)
- 20. 連結器受け(上)
- 21. ブレーキ支え
- 22. ブレーキ梁
- 23. 標識灯掛け
- 24. ブレーキ部品1
- 25. ブレーキてこ(大)
- 26. ブレーキ部品2
- 27. ブレーキ部品3
- 28. サボ
- 29. 台車穴あけジグ

注) 青字で示した部品は不都合がありますので、次の修正部品を使ってください

# 1-1. 部品の説明(修正部品)

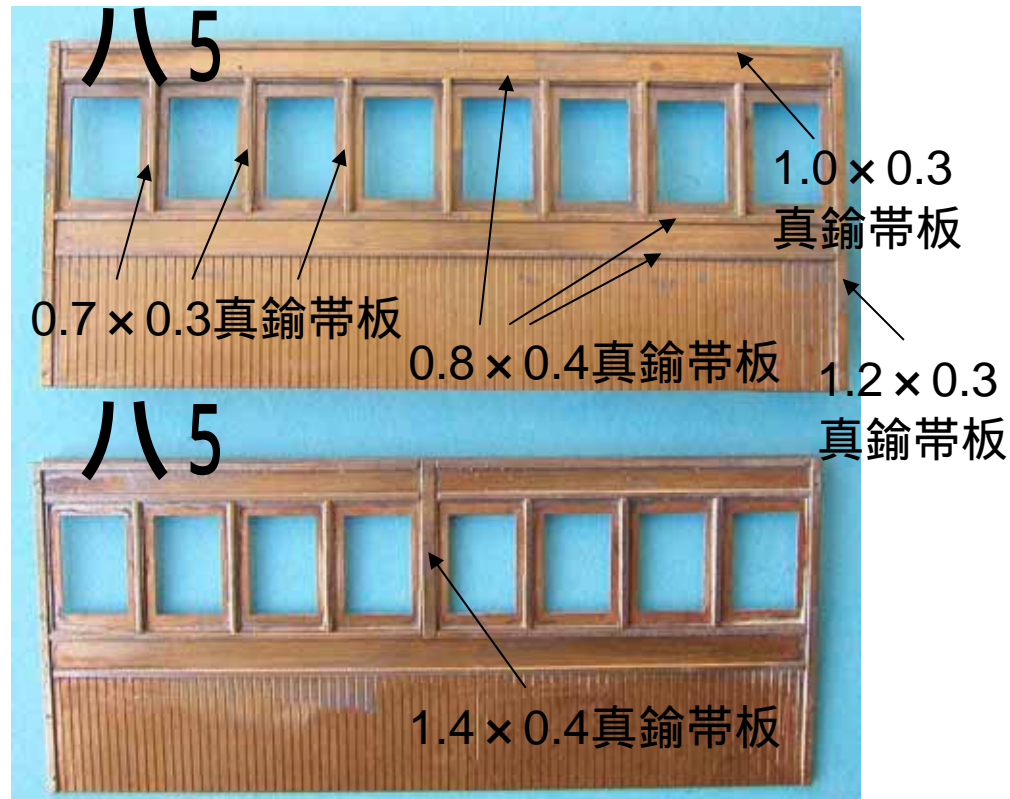


以下の部品は修正または追加したものを使ってください。

- 13.端梁
- 17.モニター妻
- 18.側梁補強
- 19.連結器受け(下)
- 21.ブレーキ支え(ハ6対応)
- 30.検査表記(ハ6用)
- 31.連結器受け取り付けジグ
- 32. ブレーキてこ(小)

21.ブレーキ支えはハ5では三角の部分を起こしてそのまま使いますが、ハ6では点線に沿って(裏に溝あり)切り離し、2分割して使います。このとき切り離した切り口が車体外側になります。

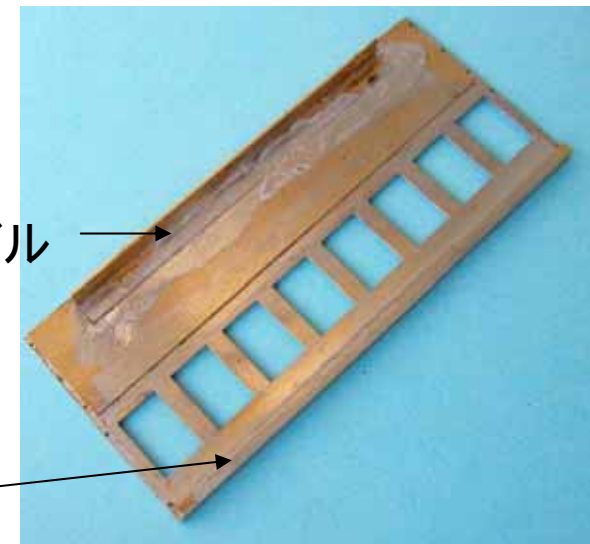
## 2 側板の製作



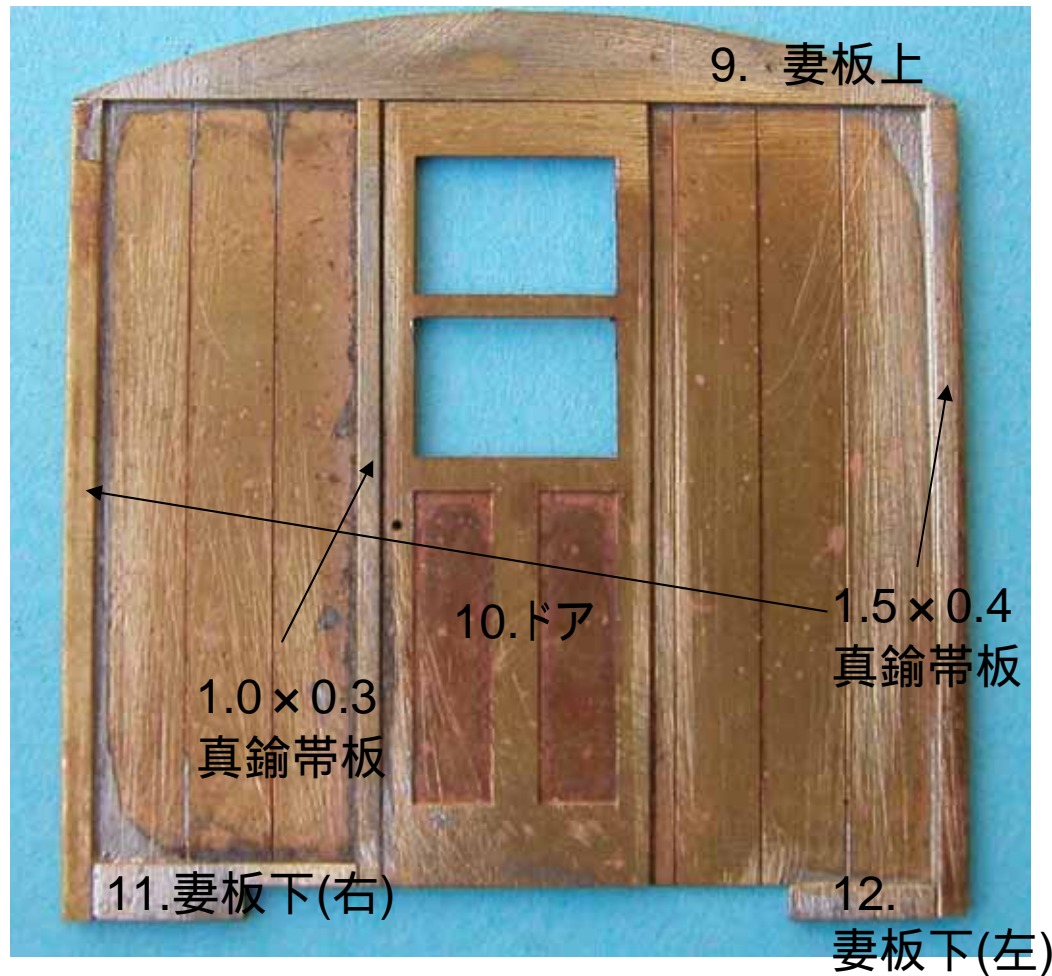
1. ハ5の場合は側板は1Aを、ハ6の場合は1Bを使います。
2. 側板に図で示したとおり真鍮帯板を張ります。
3. 裏に2 内板上、3 内板下を張ります。
4. 5 x 4mmアングルと2.0 x 2.0mm (1.5 x 1.5mmでも可) 真鍮角線を張ります。2.0 x 2.0mm 真鍮角線は2 内板上の幅と同じにします。

5 x 4mmアングル

2.0 x 2.0mm  
真鍮角線



### 3 妻板の製作

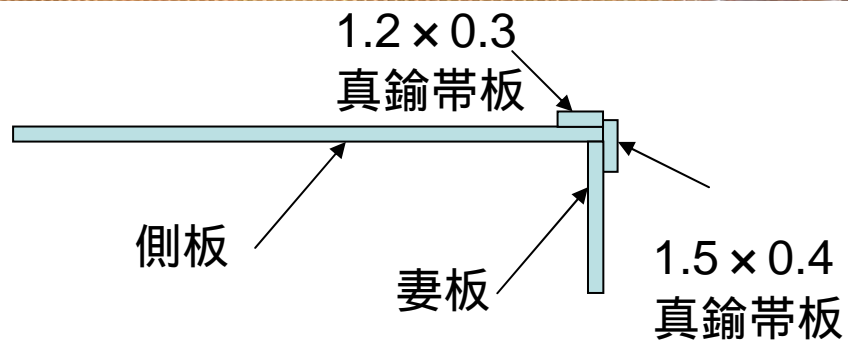


1. 4妻板に9 妻板上、10 ドアをつけた後各種帯板を貼り付けます。
2. 1.5 x 0.4真鍮帯板は、エッチングのスジに沿ってつけてください。妻板より0.5mm位出っ張ります。

# 4. 車体の組み立て

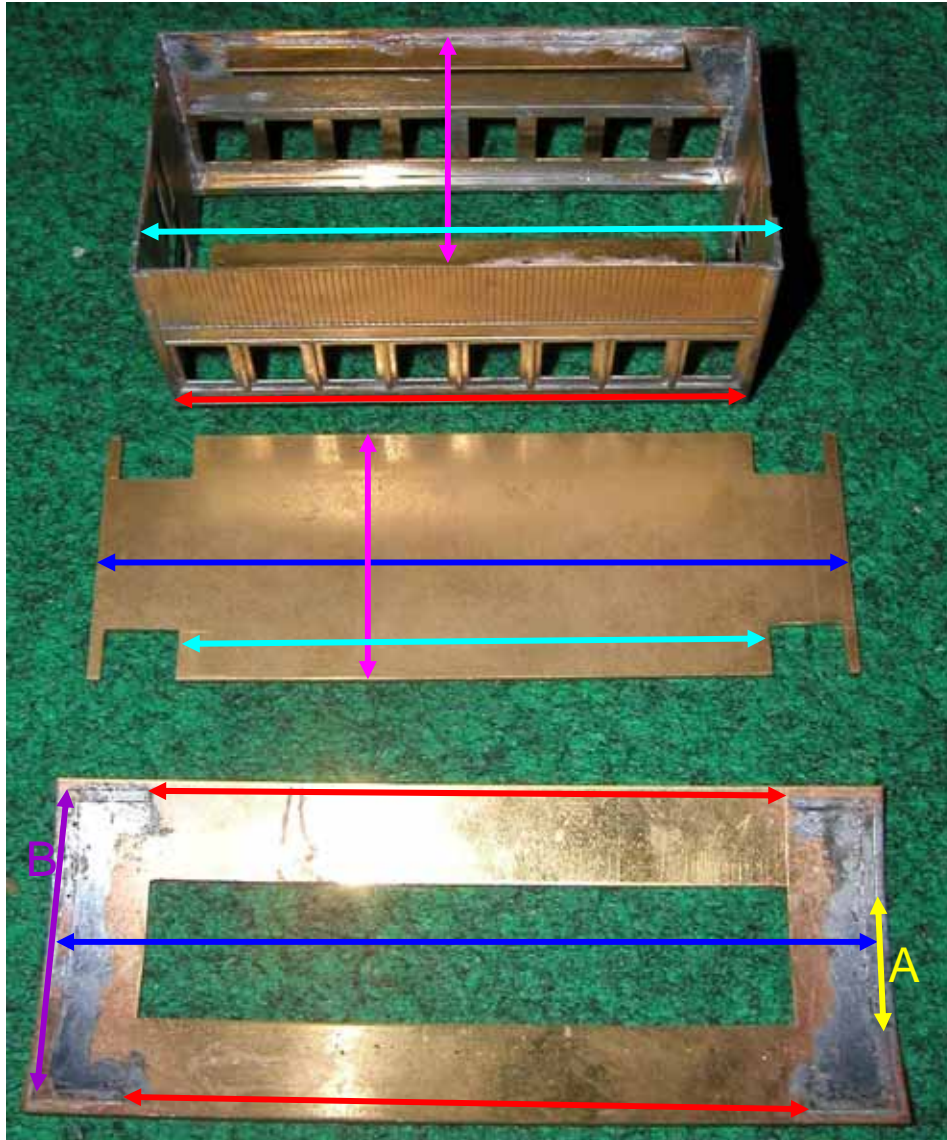


車体を組み立てます  
側板と妻板の関係は図  
を参考にしてください

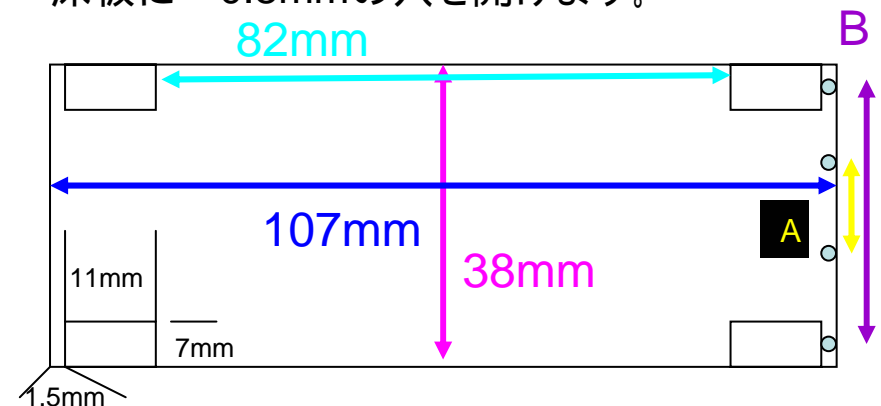




# 床板の製作 1



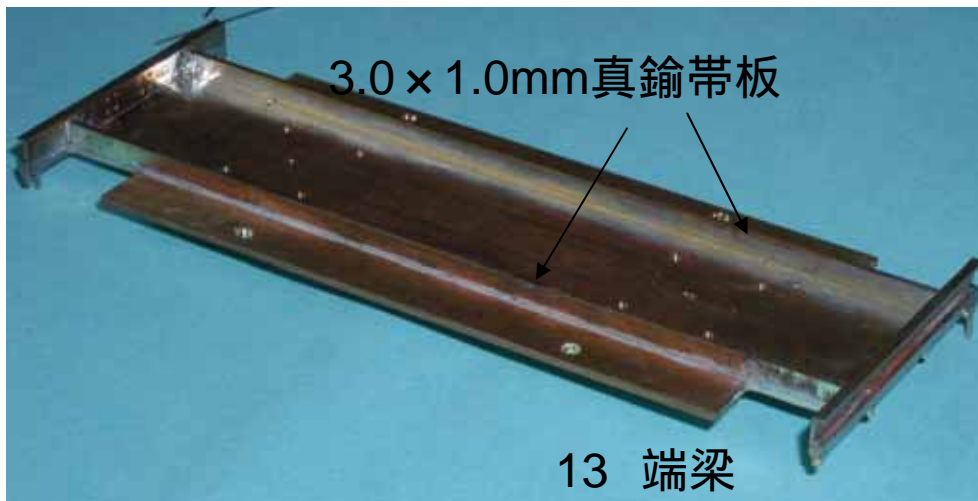
1. 床板の寸法を決める前に16 デッキ上の部品を屋根につけます。組み立てた車体の長さを測り、位置をきめて下さい。(赤の線)
2. 16 デッキ上の部品の間隔を計り、床板長さを決定します。(参考寸法107mm)
3. 車体内側の幅を測り、床板の幅を決めます。(参考寸法38mm)
4. 車体内側の長さを測り、床板の欠き取り部の長さを決めます。(参考寸法82mm)
5. ステップの欠き取りの長さは、下図のとおりです。
6. 16 デッキ上の部品の穴の間隔を計り、床板に0.8mmの穴を開けます。



# 床板の製作 2

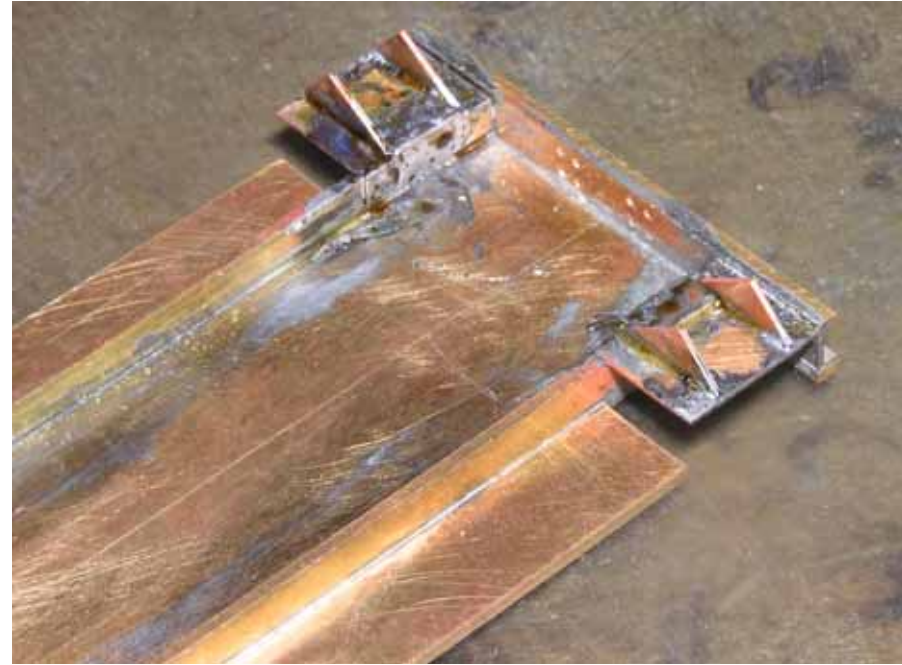


1. 端梁の裏からドリルでさらい、リベットを表現します。
2. 折り曲げ線を内側に折り曲げます。(一つ穴が空いていますが、間違えて開けたものです)



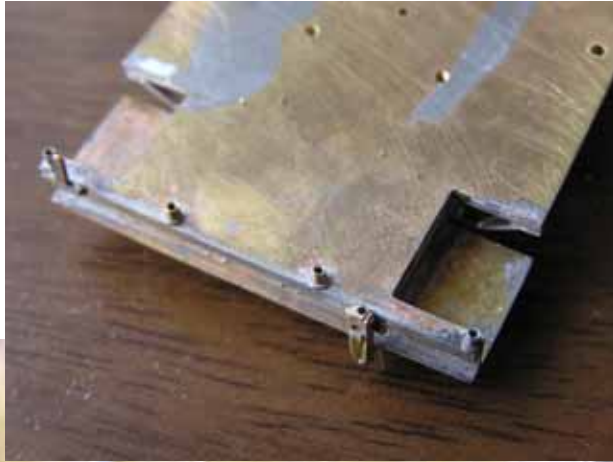
1. 床板に2 x 1 真鍮帯板と端梁を半田付け。ステップの欠き取り内側に合うようにします。
2. 端梁は床板幅に合わせて両恥をヤスリます。
3. 珊瑚の古典客車軸受けに合うように、ねじ穴を開けます。29.の台車穴あけジグを使うと簡単です。軸距離は57mmになります。

# 床板の製作3



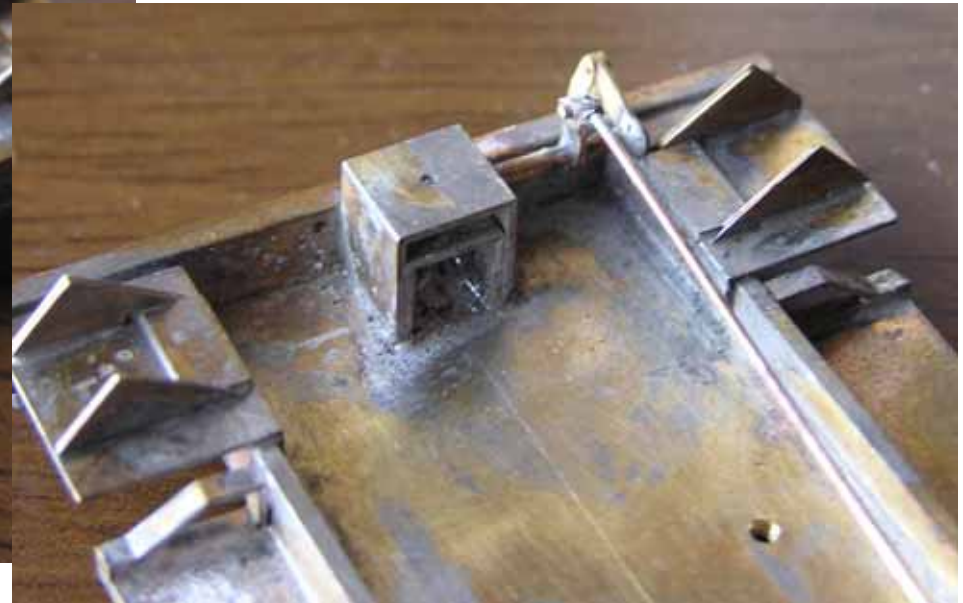
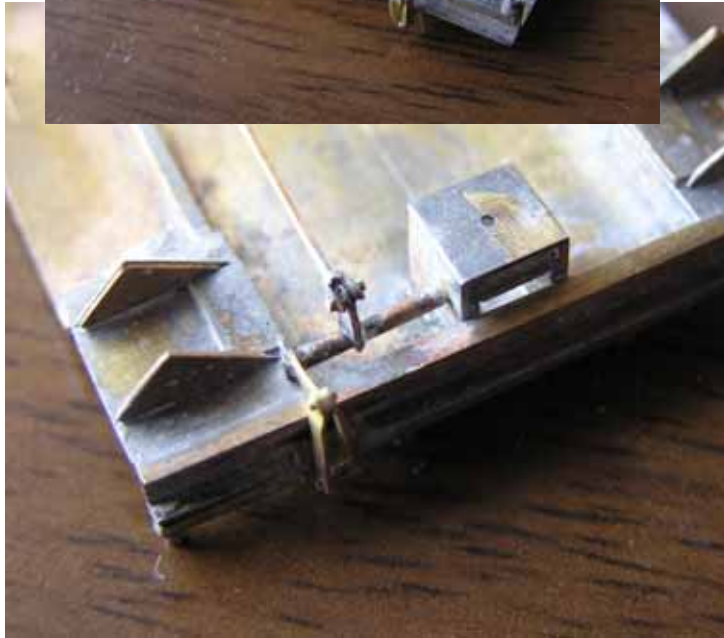
- 14.ステップを折り曲げの溝を内側に90°折り曲げ、短い方が1×3の真鍮帯板の内側になるように半田付けします。
- 15.のステップ下を付けます。14.ステップと15.ステップ下は中心がそろるようにします。

# 床板の製作 4



手スリの穴(片側4カ所)に電気用手すり座(別売り、珊瑚製)を付けます。

手ブレーキのてこ装置を付けます。不要部分を切り取り、端から8mmに中心が来るようにします。



# 床板の製作 5



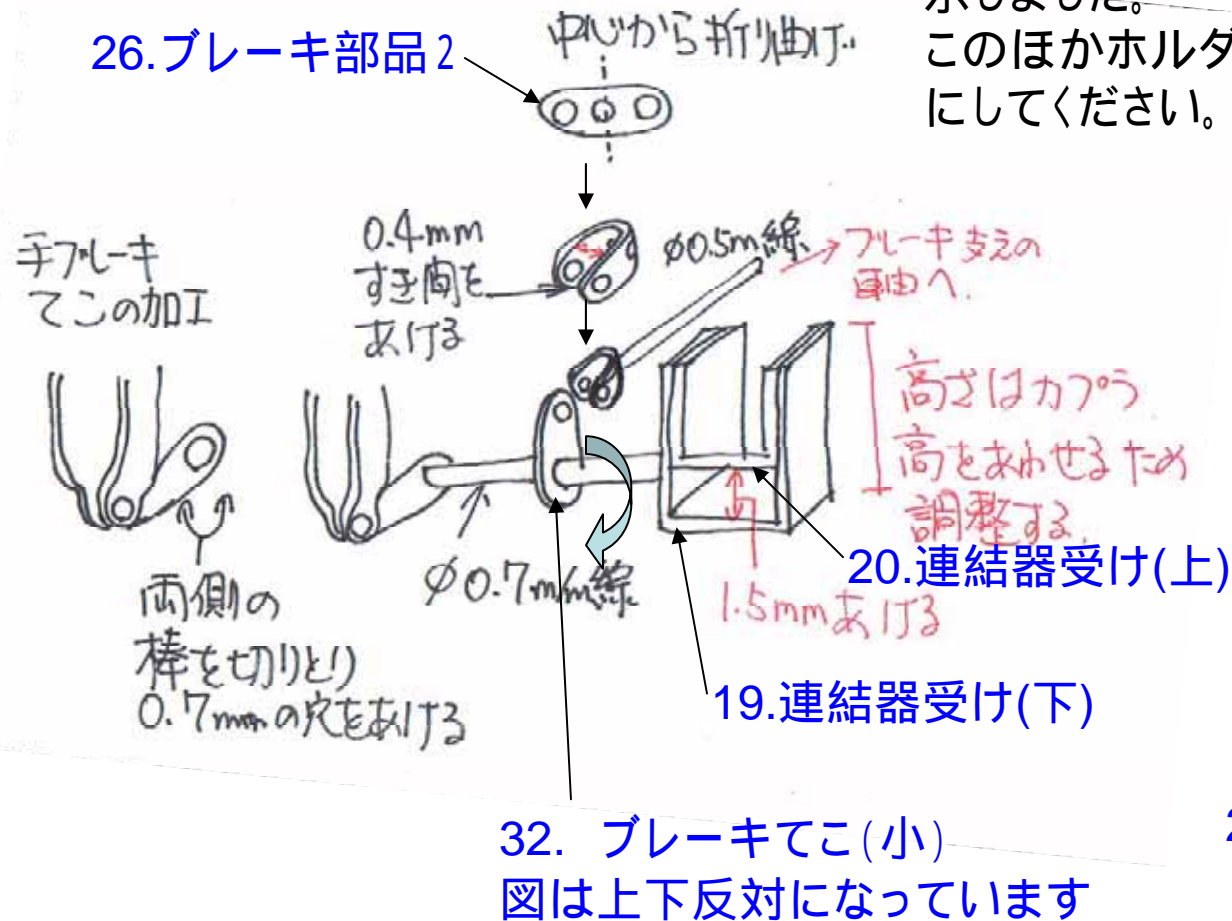
19.連結器受け(下)と20.連結器受け(上)をコの字型に曲げ19が20を包み込むように組合わせます。隙間は1.5mmで、連結器が入ること確認してください。



23の標識灯掛けを付けます。穴が開いていますのでここを0.5mmドリルで貫通させ真鍮線を埋め込むと強度が十分になると思います。

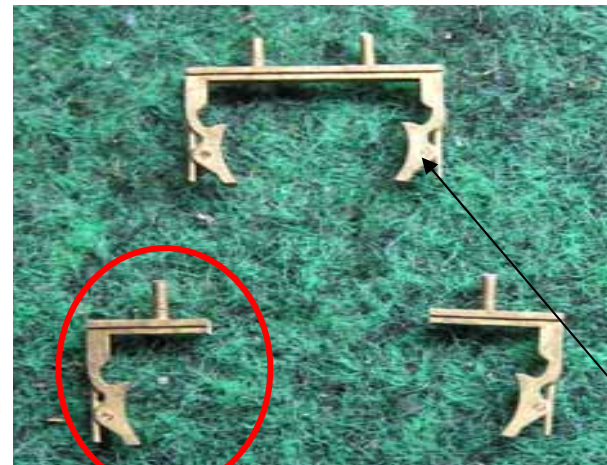
# 床板の製作 6

床板製作でわかりにくい部分を図示しました。  
このほかホルダー内の写真も参考にしてください。



# ブレーキの組み立て1

## 26.ブレーキ部品2



半分に切断



0.5mmの穴を開ける

## 22.ブレーキ梁



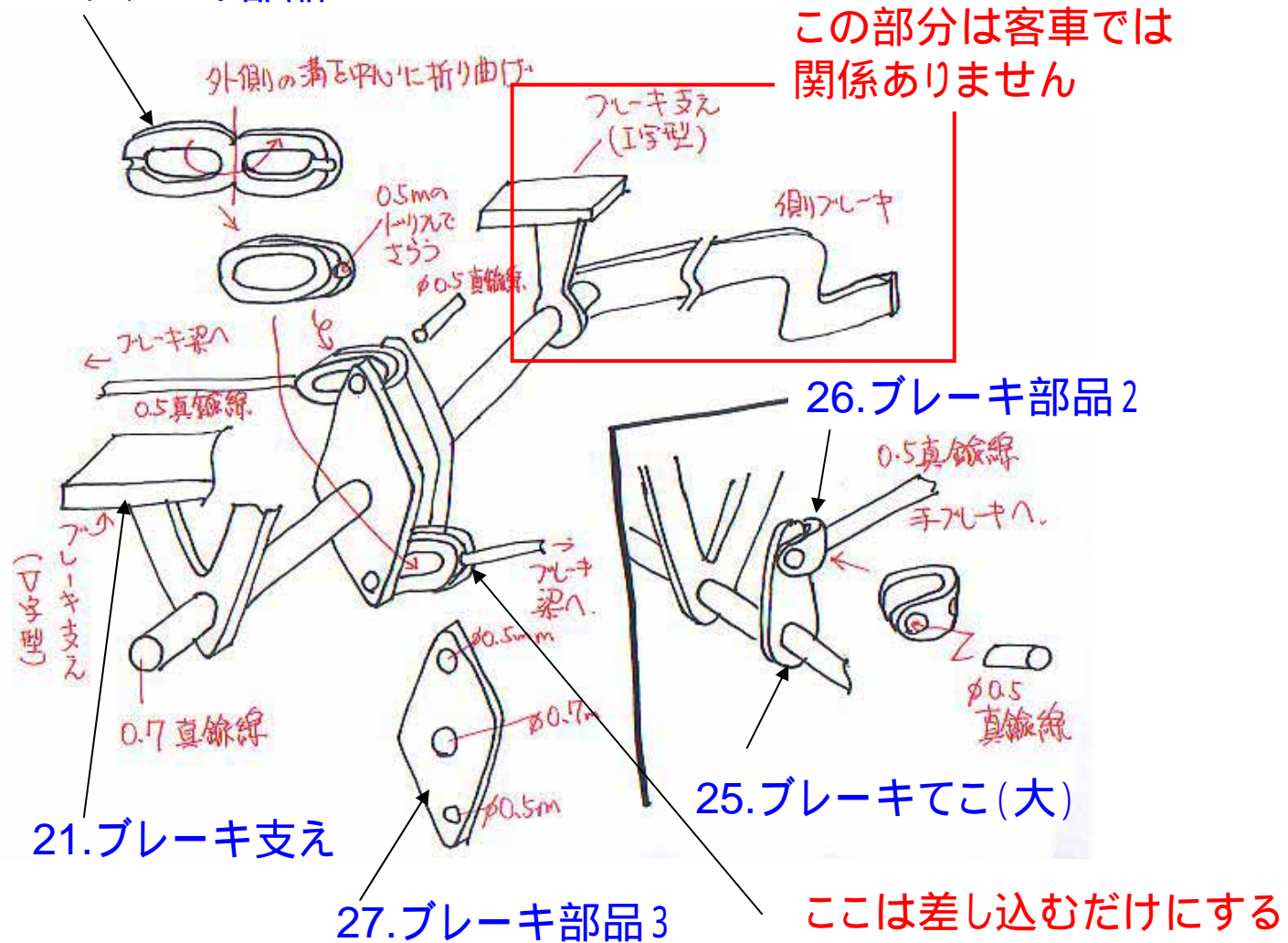
## 22.ブレーキ梁



## 26.ブレーキ部品2

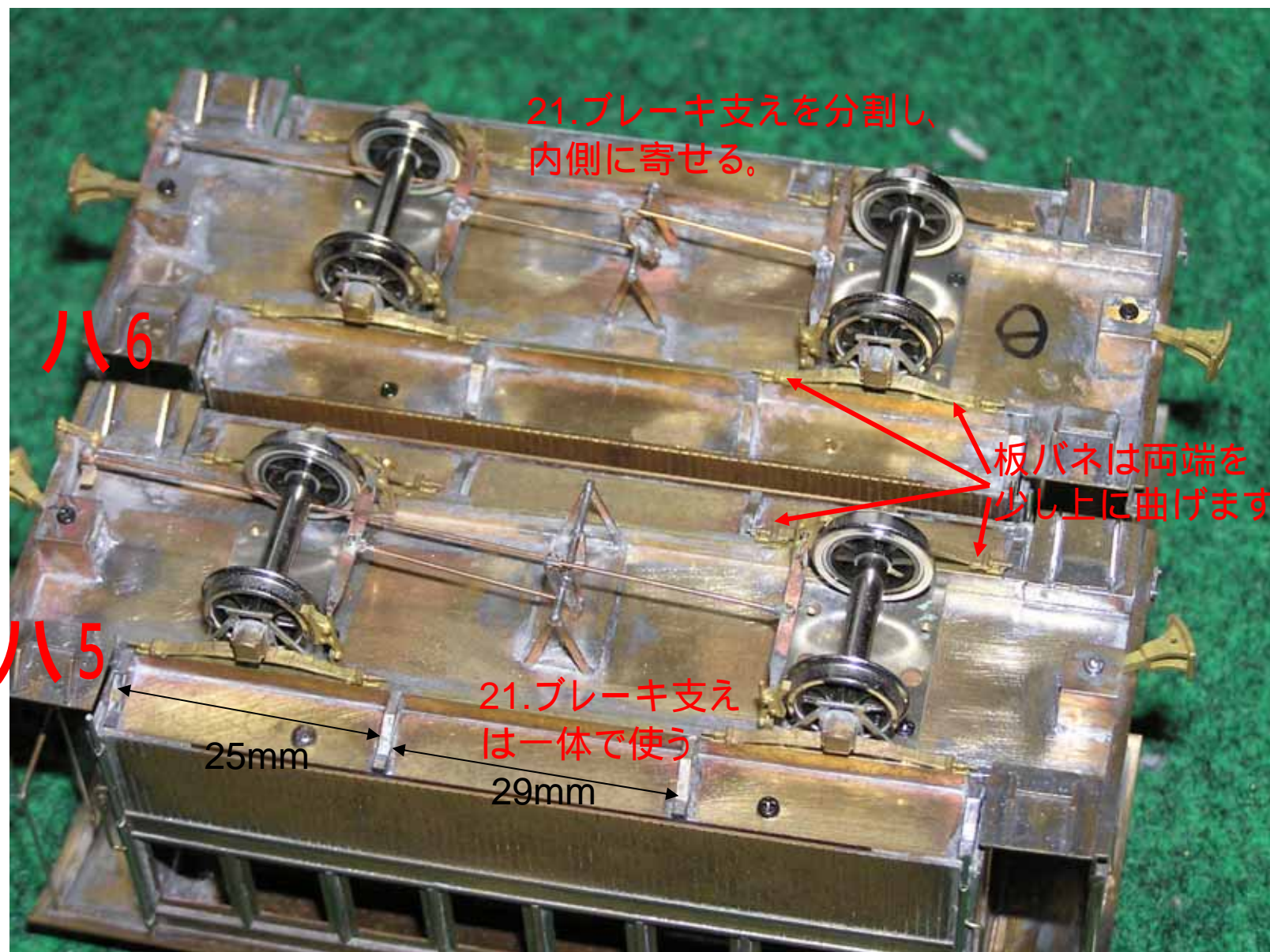
# ブレーキの組み立て2

## 24. ブレーキ部品1





# ブレーキの組み立て3



# 屋根の組み立て



1. 屋根を半田付けしてからモニターをつけます。
2. モニターの長手方向は5.0×0.4mmの真鍮帯板を使います。
3. その後、モニター上の屋根を半田付けします。

# 仕上げ

